

みかん缶詰の現況についての意見交換会

— 商品開発研究会 —

10月23日(水)15時30分より、日食協会議室に於いて日本蜜柑缶詰工業組合の幹部の方と商品開発研究会幹事企業との蜜柑缶詰の現況についての意見交換会を開催した。日食協の商品開発研究会座長の島垣研二氏(サンヨー堂(株))の司会進行で、最初に日本蜜柑缶詰工業組合理事長武井建登氏(紀州食品(株))からご挨拶をいただき、ついで事務局長の川手浩司氏から配布資料に基づき平成24年度の製造状況、原料価格、在庫状況、みかん缶詰の国内供給量の推移、京浜市場のみかん入荷量及び価格の推移などについて説明がなされた。本年はみかんの表年にあたり玉の伸び、糖度も平年並みであるが酸味はやや少なめとのこと。みかん缶詰の市場規模が縮小傾向の中で国産みかん缶詰の国内シェアは現在15%台にあり、今後の需要喚起、市場拡大を目指して国産みかんの優位性をいかした商品作りや品質向上を目指した技術会の開催等製造パッカーとブランドオーナーのそれぞれの立場から熱心な意見交換がなされた。



みかん缶詰の現況についての意見交換会 会場

参考資料

1. 平成24年度みかん缶詰ホール品製造状況

缶型	仙 台	清 水	神 戸	福 岡	実函計	換算計
1／06	6,532	35,197	45,080	88,254	175,063	218,829
2／24		494	25,231	15,272	40,997	55,756
M3／24			6,008	21,228	27,236	15,525
4／24	15,979		18,374	291,513	325,866	237,882
5／24			4,573	95,724	100,297	50,149
5／48			1,072	14,830	15,902	15,902
その他				11,570	11,570	8,201
実函計	22,511	35,691	100,338	538,391	696,931	
換算計	19,830	44,668	110,861	426,885		602,244
23年度	23,589	74,053	137,724	501,608		736,974
22年度	23,988	43,985	111,467	361,641		541,081
21年度	28,721	82,127	173,924	627,148		911,920

工場数

仙台1社 清水1社 神戸 3 社 福岡 5社6工場

計 10 社 11工場

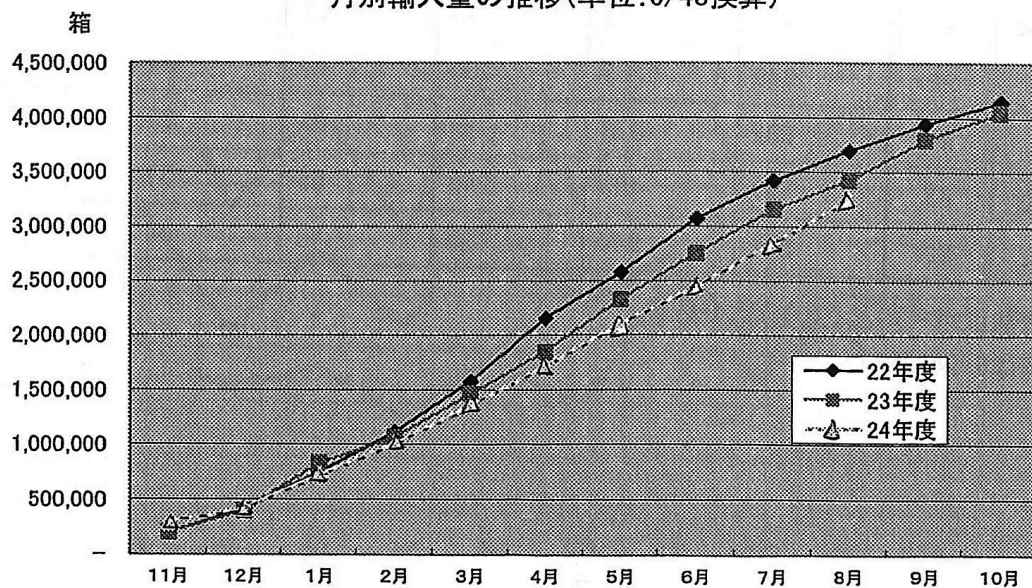
2. みかん缶詰輸入動向

平成25年8月の財務省通関統計によるとミカン缶詰の輸入数量は408千函(前年対比130%)となっている。

平成24年度輸入数量(単位:5/48換算)

年 月	中 国	スペイン	合計	前年同時期		合計
				中 国	スペイン	
24/11	289,100	5,616	294,716	198,540	2,180	200,720
12	123,494	885	124,379	199,146	2,266	201,412
25/ 1	304,138	6,231	310,369	429,483	3,316	432,799
2	285,184	573	285,757	231,424	3,563	234,987
3	341,391	9,203	350,594	390,059	4,751	394,810
4	345,659	7,481	353,140	382,570	6,571	389,141
5	379,083	12,947	392,030	462,961	15,166	478,127
6	335,929	11,526	347,455	419,203	4,698	423,901
7	386,789	4,123	390,912	403,293	674	403,967
8	402,843	5,417	408,260	309,711	5,151	314,862
9			—	320,508	5,688	326,196
10			—	305,325	2,207	307,532
累 計	3,193,610	64,002	3,257,612	4,052,223	56,231	4,108,454
前年対比 %	93.2%	132.4%	93.8%			

月別輸入量の推移(単位:5/48換算)



3. みかん缶詰の国内供給量の推移

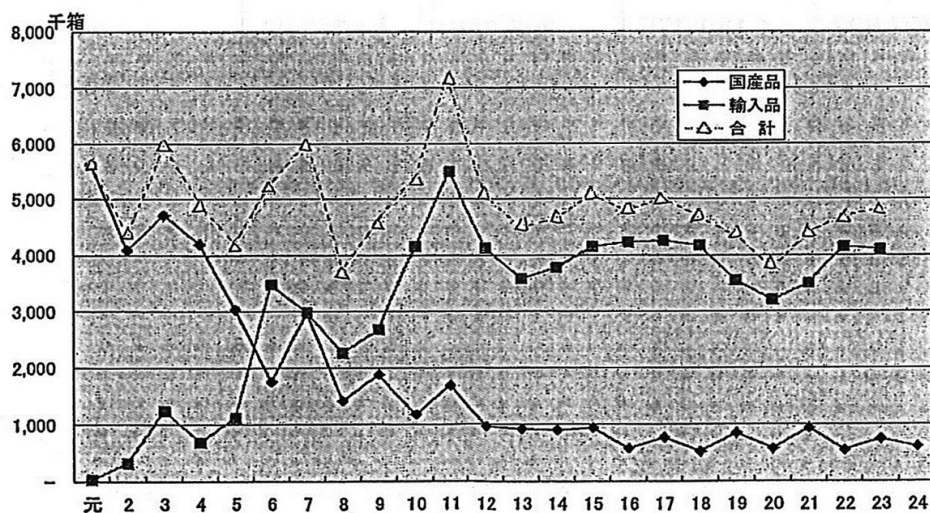
単位:5号缶×48缶

年度	供給量			供給比率	
	国産品	輸入品	計	国産品	輸入品
	千缶	千缶	千缶	%	%
平成 1	5,632	38	5,670	99.3	0.7
2	4,093	332	4,425	92.5	7.5
3	4,715	1,240	5,955	79.2	20.8
4	4,200	689	4,889	85.9	14.1
5	3,040	1,128	4,168	72.9	27.1
6	1,755	3,474	5,229	33.6	66.4
7	2,984	2,994	5,978	50.0	50.0
8	1,415	2,264	3,679	38.5	61.5
9	1,885	2,679	4,564	41.3	58.7
10	1,184	4,168	5,352	22.1	77.9
11	1,692	5,498	7,190	23.5	76.5
12	967	4,128	5,095	19.0	81.0
13	923	3,592	4,515	20.4	79.6
14	900	3,781	4,681	19.2	80.8
15	943	4,156	5,099	18.5	81.5
16	580	4,235	4,815	12.0	88.0
17	773	4,262	5,035	15.4	84.6
18	530	4,177	4,707	11.3	88.7
19	847	3,556	4,403	19.2	80.8
20	581	3,207	3,788	15.3	84.7
21	938	3,499	4,437	21.1	78.9
22	557	4,153	4,710	11.8	88.2
23	752	4,108	4,860	15.5	84.5
24	618	3,258	3,876		

注)数量中にはホール品、ブローケン品等を含む。

輸入品は11月から翌年10月までの累計(財務省通関統計)

平成24年度の輸入品は24年11月から25年8月までの累計



4. 平成 24 年産みかん缶詰在庫状況

(平成25年度7月末在庫調査)単位:千箱

缶型入数	年度	製造数	在庫数	出荷率	在庫率	左のうち	
		千箱	千箱	%	%	預かり率	未販売率
1/06	24	175	122	30	70	32	38
	23	206	128	38	62	33	29
	22	166	94	44	56	36	20
2/24	24	41	35	15	85	50	35
	23	54	35	35	65	31	34
	22	30	17	42	58	46	12
M3/24	24	27	11	60	40	40	—
	23	28	17	39	61	61	—
	22	57	11	81	19	19	—
4/24	24	326	199	39	61	50	11
	23	429	224	48	52	43	9
	22	282	115	61	39	37	2
5/24	24	132	41	69	31	22	9
	23	151	47	69	31	24	7
	22	107	18	84	16	8	8
その他	24	12	3	72	28	2	26
	23	8	—	—	—	—	—
	22	7	4	43	57	32	22
実箱数	24	713	411	42	58	39	19
	23	876	451	49	51	37	14
	22	649	258	60	40	33	7
換算計	24	602	373	38	62	39	23
	23	737	405	45	55	37	18
	22	541	240	56	44	34	10

※製造数はホール品(丸缶)数である。

5/48は5/24に含む。

第2回 政策委員会兼食品取引改善協議会開催

— 10月23日 —

今年度第2回の政策委員会兼食品取引改善協議会を10月23日(水)午前9時半より日食協会議室に於いて開催した。主要な議題は、上半期を終了しての事業総括と下半期に向けての事案検討であったが、特に11月7日(木)の理事会で機関決定する予定の消費税転嫁特別措置法に関する共同行為(カルテル)の申請について慎重な検討を行った。

*主要上半期活動報告

- ①会員動向について
- ②消費税増税の対応について
- ③定款の一部変更案について
- ④平成26年度税制改正等に関する要望書について
- ⑤2013年度環境自主行動計画提出の内容骨子について
- ⑥食品流通に係る取引の適正化の推進について
- ⑦製造業者との取引の公正化について公正取引委員会からの要請について
- ⑧これからの介護食品をめぐる論点について
- ⑨新型インフルエンザ対策について
- ⑩納品期限の見直しに関する実証事業の開始について

平成25年度情報システム研修会開催 — システムの標準化推進を共有化 —

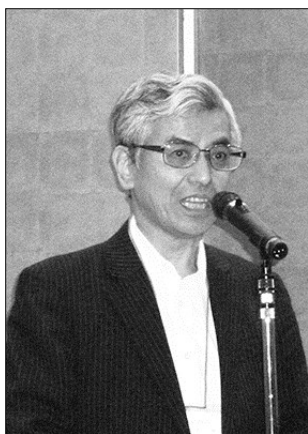
— 10月25日 —

平成25年10月25日(金)午後1時30分より東京日暮里にあるホテルラングウッドに於いて会員卸、賛助会員の情報システム担当者らを対象とした平成25年度情報システム研修会を全国卸売酒販中央会との共催で開催した。当日は会員卸21社、賛助会員13社、システムベンダー他7社等総勢で110名が参加した。日食協情報システム研究会副座長の高波圭介氏(国分(株))の司会進行で、冒頭情報システム研究会座長の竹腰雅一氏(伊藤忠食品(株))が「情報システム部門として当面取組む課題として、消費税増税への対応とWINDOWS-XPのマイクロソフトのサポート終了の対応がある。また日食協EDIW・Gと情報志向型卸売研究会での検討結果から流通BMSのチェンジリクエストを挙げるべく検討を行っている。」と開会の挨拶を述べた。ついで奥山専務理事が、「日食協事業活動報告」として①消費税増税対応策として、消費税転嫁対策措置法に基づくカルテルの申請を、11月7日開催の理事会で機



開会挨拶をする
情報システム研究会 座長
伊藤忠食品(株) 竹腰雅一氏

関決定する予定。地域卸同業会と連携し、11月中に申請に向けて準備する。②8月に公正取引委員会から製造業者との取引公正化について要請受けた。課題として、センターフィーの実態把握、センターフィーの負担要請の際の行動プロセスのあり方、物流センターを利用している取引価格の実態の把握と是正、製・配・販によるセンターフィー負担のあり方の検討等があると述べた。続いて講演に入り、最初に、一般財団法人流通開発システムセンター 研究開発部 主任研究員 坂本真人氏が「流通システム標準普及推進協議会」の活動について講演、ついで公益財団法人流通経済研究所 専務理事 加藤弘貴氏が「製・配・販連携協議会」の活動状況について、続いて(株)ジャパン・インフォレックス 代表取締役社長 西田邦生氏が「卸向け商品DBのWEB検索システム “Inforex TREASURE”」について初期投資不要、容易な操作性、多様な用途等を報告、最後に富士通(株)流通ビジネス推進統括部シニアマネージャー 宮澤哲也氏が「食品業界におけるビッグデータテクノロジー活用の方角性について」を講演した。その後懇親会に行き、開会挨拶を全国卸売酒販組合中央会専務理事塩本昇氏が行い、中締め挨拶をヤマエ久野(株)草場信之氏が行って閉会した。



懇親会で開宴の挨拶をする
全国卸売酒販組合中央会
専務理事 塩本昇氏



情報システム研修会 会場



中締めの挨拶をする
ヤマエ久野(株) 草場信之氏



情報システム研修会 懇談会会場

平成25年度情報システム研修会 講師・演題

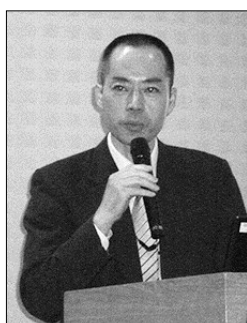


「流通システム標準普及推進協議会」の活動について

一般財団法人 流通システム開発センター

研究開発部主任研究員

坂本 真人 氏



「製・配・販連携協議会」の活動状況について

公益財団法人 流通経済研究所 専務理事

加藤 弘貴 氏



卸向け商品 DB の WEB 検索システム

「Inforex TRESURE」について

(株)ジャパン・インフォレックス 代表取締役社長

西田 邦生 氏



「食品産業におけるビッグデータテクノロジー活用の
方向性」について

富士通(株)流通ビジネス推進統括部

シニアマネージャー

宮澤 哲也 氏

農林水産省幹部との意見交換会開催

— 執行運営委員会 —

平成25年10月29日(火)午後3時から日食協会議室に於いて執行運営委員会が開催されたが今回は農林水産省食料産業局食品製造卸売課から3名の幹部をお迎えして「第5次食品の流通部門の構造改善を図るための基本方針」の策定に向けたヒアリング意見交換会を行った。食品流通構造改善促進法に基づき食品の流通部門の構造改善を図るための基本方針が、おおむね5年ごとに、食品の特性に応じた流通の態様を勘案して定めることになっており、食品流通に係る動向や課題等について幅広く意見交換を行った。

(主なヒアリング項目)

- ・流通の各段階におけるコスト縮減
- ・多様な流通経路の形成
- ・食品情報の適切な提供の推進
- ・安定的な食品提供サービスの確保
- ・公正な取引関係の確保
- ・環境問題への取り組み



農林水産省幹部との意見交換会で挨拶する
食品製造卸売課 山田食料産業調査官

食品ロス削減等についての講習会開催

— 大阪府食品産業協会 —

平成25年11月8日(金)一般社団法人大阪府食品産業協会主催の「食品ロス削減等についての講習会」が大阪市阿倍野区民センターで開催され、奥山専務理事も講師として「加工食品卸売業における食品廃棄物等の発生抑制への取り組み」と題して食品ロス削減に向けた返品問題に向けた取り組みについて講演した。講習会は最初に、主催者挨拶を、一般社団法人大阪府食品産業協会会長の岡本 檣雄氏が行い、ついで基調講演として農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室室長長野麻子氏が「食品ロス削減等に向けた取り組みと今後の展望」について、世界のもったいない事情、日本のもったいない事情、食品ロス削減のためのフードチェーン全体の取り組み状況、食品リサイクル法



食品ロス削減等についての講習会 会場

の概要などについて講演、ついで奥山専務理事が加工食品卸業界から報告、最後に小売業界から「食品ロス削減等への取り組みとして、食品残渣ロスを使用したリサイクル事業(有機性液体肥料による農作物栽培)」を(株)関西スーパーマーケット 間 秀生氏が報告を行い、最後に質疑応答を行って閉会した。

第6回 全国事務局会議開催

— 11月13日 —

平成25年11月13日(水)日暮里のホテルラングウッドに於いて第6回目の全国事務局会議を開催した。来期にかけて一部の支部事務局が異動することが予定されていることから事務局業務の円滑な継続を図るため複数の人員に参加をいただいた。当日は11月7日に行われた日食協理事会の議案内容を共有化することや予算、決算業務などの留意事項や日程などについて確認が行われた。終了後は、例年のように当日同会場で行われる関東支部経営実務研修会に合流していただいた。



全国事務局会議 会場

第3回 政策委員会兼食品取引改善協議会開催

— 11月19日 —

平成25年11月15日(火)午前10時30分よりアーバンネット大手町ビル東京會館の会議室に於いて本年度第3回目の政策委員会兼食品取引改善協議会を開催した。主な会議内容は、消費税転嫁対策特別措置法に基づき共同行為(カルテル)の申請を公正取引委員会に行い受理されたことの

報告や当日行われる賛助会員幹事店会の運営について打ち合わせであった。また食品表示等の問題について政策委員長から賛助会員幹事店会でメーカー各位にお願い事項として申し上げる内容について確認を行った。

第17回 賛助会員幹事店会開催

— 11月19日 —

平成25年11月19日(火)午前11時30分よりアーバンネット大手町ビル東京會舘會議室に於いて第17回賛助会員幹事店会を開催した。会議は、昼食後奥山専務理事の司会進行で冒頭、弊協会を代表して政策委員長宮田善康氏(三菱食品(株))が挨拶し、現状の食品表示等の問題にもふれ、メーカー各位に今後もコンプライアンス経営を継続して信頼に基づく加工食品の製造、流通を要請した。続いて賛助会員幹事企業を代表して味の素(株)梅澤忠徳氏からご挨拶をいただいた。ついで事務局から11月7日に開催された日食協理事会の概要報告を行い、その中で消費税転嫁対策特別措置法に基づき公正取引委員会に11月18日に共同行為(カルテル)の申請を行い受理されたことを報告した。次いで意見交換テーマに入り、①消費税の増税対応について②賞味期限の「年月」表示への対応について③PB対応戦略について出席メーカー各位からご発表をいただいた。特に消費税増税の対応としては価格転嫁を基本として値頃感維持のための新商品開発、増税前の仮需対策、増税後の需要喚起の販促企画強化等について貴重なご意見を伺うことが出来た。また「年月」表示については賞味期限が1年以上の商品等については前向きな評価だが同時に現行の取引慣行のルール緩和を求める意見が多かった。



賛助会員幹事店会で挨拶する
政策委員長 三菱食品(株)宮田善康氏



賛助会員幹事店会で挨拶する
味の素(株) 梅澤忠徳氏



賛助会員幹事店会 会場